

学習計画表：

国語	<p>No. 1 聖光の語句(熟語), 文学的文章[平成28年度第1回 文学的文章を用います。事前にお取り組みにならないようお願いいたします] 大問1で求められる熟語・漢字の知識は、聖光学院を受験する者に必須の知識。聖光学院のみならず、最難関校に必要な熟語の知識の再確認と、可否の分かれ目と言われる文学的文章における選択肢問題へのアプローチを、心情把握を中心に行う。</p>
	<p>No. 2 聖光の語句(和語), 説明的文章[平成28年度第1回 説明的文章を用います。事前にお取り組みにならないようお願いいたします] 大問2および文章題の中で問われる語句問題に必要な知識を再確認。こちらも聖光学院だけではなく最難関校レベルの幅広い知識を扱う。また可否の分かれ目と言われる説明的文章における内容理解、傍線部の具体化等選択肢問題へのアプローチを中心に行う。</p>
	<p>No. 3 聖光の記述特訓 No.1ならびにNo.2の講義による心情把握, 内容理解, 具体化などの内容を踏まえ、近年重要度を増している記述問題への対策を伝授する。問いのポイントを的確に捉え、確実に表現するための記述特訓を行い、合格点獲得をより確実なものにしていく。</p>
	<p>No. 4, No. 5 聖光学院入試過去問による総合問題演習[平成29年度第1回・第2回には事前にお取り組みにならないようお願いいたします] No.3までの特訓を踏まえ、過去の聖光学院入試問題を使用して演習を行う。身につけたアプローチの方法を効率よく発揮するための時間配分、問題の取捨選択等も合わせて伝授し、得点力アップへと昇華させていく。</p>
算数	<p>No. 1 聖光の場合の数 聖光学院入試においては「書き出しに進むか」「計算に進むか」の判断力が生命線。その後の作業も正確さを要求される。最も差がつく分野といっても過言ではないこの分野について、効率の良い書き出し方、ハイレベルな計算テクニックを伝授する。</p>
	<p>No. 2 聖光の数の性質 比, 約数・倍数, 整数条件の複合題等、数の性質に関する問題は、聖光学院でほぼ毎年出題されている。与えられた条件を効率よく整理し、条件の中でどの数字から狙うべきなのか、感覚+論理、ひいては作問者の意図を読んだ解法を学ぶ。</p>
	<p>No. 3 聖光の平面図形 複雑な図形問題や作図能力を問う問題、誘導を利用しなければ解法を見付けにくい問題等様々な角度から受験生の能力を測る問題が聖光学院では出題される。求めたいものから逆算して必要な相似形を見つけるなど、ワンランク上の解法を学ぶ。</p>
	<p>No. 4 聖光の立体図形 聖光学院では一見非常に複雑な立体が出題される。しかし丁寧に考えていけば基本図形の組み合わせであることが多く、立体図形の特徴をいかに捉えるかが勝負の鍵。そのために必須の、立体図形を平面に落とし込んで考える手法を学ぶ。</p>
	<p>No. 5 聖光の速さ 条件の入り組んだ問題が非常によく出題される。得意不得意の差が出る分野なので、正解できれば合格に大きく近づくことになる。煩雑な条件を状況図やダイアグラムなどを用いて丁寧に整理し、誘導のついで答えを導き出すスキルを伝授する。</p>
理科	<p>No. 1 聖光の表整理～理解への手立て①～ 長い問題文を読み取り複数の条件を把握するためには、表を用いて整理する力が必須。すばやく表で整理するためのポイントと、その表を用いて考える方法を学ぶ。</p>
	<p>No. 2 聖光の図示, グラフ化～理解への手立て②～ 難しい問題の多くは、図やグラフをかいてイメージをまとめると考え方が見えてくるもの。必要な情報をもれなく図の中に集約する力と、えがいたグラフの注目すべきポイントを学ぶ。</p>
	<p>No. 3 聖光の論理～理解への手立て③～ どんなに難解な問題も、元をたどれば基本的な考え方が複合しているだけ。筋道を立てて考えれば、答えまでたどり着くことができる。聖光学院特有の長文の誘導に乗りながら、筋道を立てて考える方法を学ぶ。</p>
	<p>No. 4 聖光の電気～誘導に乗ろう! ①～ 未知の現象を長文で説明し、誘導しながら考えさせる問題が聖光学院では頻出。誘導問題の中でも特に出題されやすい電気分野について、未知の現象でも恐れず解くことのできる力を養う。</p>
	<p>No. 5 聖光の力学～誘導に乗ろう! ②～ 聖光学院の力学では、シンプルな装置を用いた実験から始まり、段階的な誘導を経て、大変複雑な装置を用いた実験について考えさせる問題が頻出する。出題者の意図をくみ取り、複雑で難解な装置にも対応できる力を養う。</p>
社会	<p>No. 1 聖光の地理①～神奈川・横浜を読み解く～ 聖光学院の地理では、神奈川・横浜を題材とした問題が出題されることが少なくない。そこで、神奈川・横浜を切り口とした演習問題を通じて、第一次産業・工業・交通・貿易など、地理のさまざまな分野を学習する。</p>
	<p>No. 2 聖光の地理②～資料・地図を読み解く～ 聖光学院の地理では、単純な知識だけでは太刀打ちできない、さまざまなグラフや表・地図・地形図を用いた問題が出題される。地理のさまざまな分野の資料や地図を用いた問題の演習を通じて、正確に読み取り、正答を導き出す力を養う。</p>
	<p>No. 3 聖光の歴史①～テーマ史(世界)をひもとく～ 聖光学院の歴史は、さまざまなテーマについての文章をもとに古代から現代まで出題される。そこで、中国やヨーロッパなどの世界各地に関する問題や、聖光学院を受験する上でおさえておきたいキリスト教をテーマとした問題の演習を行う。</p>
	<p>No. 4 聖光の歴史②～テーマ史(日本)をひもとく～ 聖光学院の歴史は、神奈川・横浜に関する問題をはじめ、日本における幅広いテーマについて古代から現代まで出題される。問題の演習により、地域・時代を行き来するような出題にも対応できるような力を養う。</p>
	<p>No. 5 聖光の公民～現代社会の「今」に目を向ける～ 聖光学院の公民は、時事問題や世界に関する問題が多く出題される一方、六曜や冠婚葬祭といった伝統に関する問題も見られる。通常であれば触れる機会の少ないテーマや地理・歴史との融合問題等の演習を通じて、全分野における得点力を養う。</p>